

自分をより高めるために 立志の言葉



令和三年度三島中学校立志式

七月九日(金)三島町交流センター山びこにおいて、令和三年度の立志式を行いました。二年生十名が、これから的人生を生き抜く上で、自身よりどころとなる「立志の言葉」を一人一人発表しました。どの言葉からも、もともと成長したいという強い思いが伝わっており、大変頼もしさを感じました。本校では毎年行っている儀式的行事の一つですが、入学式、卒業式とは違い、子どもたちの主体性が全面に表れており、成長のスピードが加速される瞬間のような感じがします。二年生のこの時期は、この立志式と並行して職業体験の準備を進めており、親の気持ちに少し触れる瞬間もあると思われまふ。社会的自立を意識するには、良い時期ですね。



「雲外蒼天」 「剛毅果斷」 「冷静沈着」 「緊禪一番」 「視聴言動」 「敢為邁往」



「溫柔敦厚」 「初志貫徹」 「克己復礼」 「一視同仁」

今月の1枚

全会津中学校体育大会
陸上競技
6月14日(月)・15日(火)
共通男子四種競技110mH
あいづ陸上競技場



夢と希望 七夕に願いをこめて



【教育目標】

心豊かな生徒
自ら学ぶ生徒
たくましい生徒

桐の里だより

令和3年7月号
三島町立三島中学校
校長 関根宏房
ホームページURL
<https://mishima.fcs.ed.jp/>三島中学校



成長を支える家庭と地域

毎年、七月になると、三島中では七夕飾りが飾られます。今年も、2階のプレールームに置かれた笹には、子どもたちの思いや願いが込められた短冊が、たくさん飾られました。私たち教職員も子どもたちと同じように、短冊に願いを書いて飾りますが、みんなの目に触れることになるもので、いざ、書くとなるとやはり身構えてしまうところがあります。中学生くらいの年齢になると、子どもたちもそうなのかも知れませんが、しかし、実際に飾られた短冊を見てみると、視力や身長、体重など自分の健康面についての願い、テストの成績や受験など学習面での願いなど、この時期の子どもが願うような内容が多くあります。中には、親に買って欲しいものを書いた子、自分の趣味に関する願いを書いた子もいます。

今の充実した学校生活がさらに楽しくなるように願う子、運命の人との出合いを願う子など、なんとも微笑ましいところですね。子どもたちが、こうして、自分自身の願いを書くことができるのは、今の生活環境がある程度安定していることの表れかと思えます。学校生活の中で、常に笑っている子に、人の目にさらされるような場に、自分自身を表出させることはできません。家庭に帰ると目を覆うような光景が広がっていたり、ギスギスした雰囲気の中で、食事も喉を通らず、夜も眠れなかったりする子が、将来に夢や希望をもつことなど、考えることもできないと思います。三島の子どもたちが、三島の生徒が素直に自分の思いを表出させているこの状況は、保護者の皆様はじめ地域の皆様への感謝の気持ちしかありません。